



「女性研究者研究活動支援事業」成果報告会 活動報告

11月3日(月)女性研究者研究活動支援事業の啓発活動のひとつとして、女性研究者支援の継続に向けて「女性研究者研究活動支援事業」成果報告会を開催しました。当日は、学部生、大学院生、教職員、卒業生、一般の方、本事業関係者等約70名と多くの方にご参加いただきました。成果報告会は本学の鈴木信里常務理事の主催者挨拶、基調講演、「女性研究者研究支援員制度」利用者2組による報告、3名のパネリストによる意見交換会、そして最後に、本学における「女性研究者研究活動支援事業」の継続に向けて、小野祥子学長からの報告というプログラムで実施されました。



基調講演「女性研究者の過去・現在・未来ー数学をフィールドとしてー」

東京大学大学院数理科学研究科 教授 石井志保子氏

石井先生がなぜ研究者を目指そうと思われたのか、その想いとこれまでの道程についてイラストをまじえてお話いただいたことは、研究者を目指す若い人たちにとってとても励みとなるお話でした。

報告会終了後のアンケートでは……

「石井先生はすばらしいロールモデルであると思います。とても良いスピーチでした。語り口もスマートでユーモアもあり…、ユーモア教育も必要かと思いました」



「女性研究者研究支援員制度」成果報告会

制度申請者2名と、その研究支援員の大学院生2名から、それぞれの研究内容、支援を依頼した業務とその成果、研究支援員へのキャリア形成への寄与等について報告がなされました。



英語文学文化専攻
ルイズ大橋准教授

人間科学科博士前期課程
大西まどかさん



情報理学専攻
荻田武史准教授

理学研究科博士前期課程
小林由佳さん

報告会終了後のアンケートでは……「研究支援員の大学院生が支援の仕事を非常にプラスと捉えているのが印象的でした」
「短期的な支援制度に終わらず、長期的に研究者を支援できるようになるとよい」等



「女性研究者研究支援員制度」の今後に向けての意見交換



意見交換では、石井志保子先生、荻田武史先生に加え、本学情報理学専攻の加藤由花教授に入っただき、3名のパネリストを中心に会場の参加者を含めた対話形式で実施されました。

会場からの質問として

「研究者になることは男女問わず難しいことではないか」「数学科に入学する女子学生を増やせば女性の数学研究者も増えるか。それとも男子学生が研究者になるのとは別の問題、課題があるか」
「大学院時代に経験しておいたほうが良いと思うことはなにか」

また研究支援員に対して「自分の研究が忙しい時に支援員をするのが大変だったりしませんでしたか。特に異分野の場合に、自分の研究と支援員業務の両立が大変だったりしませんか」等が投げかけられました。

対話のなかで特に印象的なメッセージは、

「優先順位をつけることが重要であること」「きちんと業績をあげていくこと」「海外を含めた学会に積極的に参加していくこと」等が挙げられます。

■託児実施 本館 1F 0105 教室にて

今回は、託児を実施し4名のお子さんをお預かりしました。託児に関しては利用者だけでなく、多くの方からの意見が寄せられました。

- ・「研究」に限らずですが、今日のように休日の授業日(入試業務なども含む)に子どもを預けられる環境があると本当に助かると思います。
- ・ハッピーマンデーの託児ですが武蔵野5大学などで合同で行うという事も考えられないでしょうか(東女だけだと人数が少ないようであれば)
- ・大学に保育室のようなものがあるとよいと思います。あるいは保育ボランティアのようなシステムがあると良いと思います。
- ・子育てをしながら学ぶ女性を受け入れる体制が必要だと感じる。女子大において幅広い年齢層の人が学ぶことは女子大のダイバーシティにもつながり、東京女子大の良さになると思う。





メンター制度 開始しました

このたび、メンター制度を開始致しました。自分自身も研究者として経験を積まれてきた本学の教員や退職された教員がメンター（相談役）となり、女性研究者や大学院生（メンティ）の相談にのるサポートを行います。メンター制度利用申込方法の詳細は、女性研究者支援室ホームページをご覧ください。相談内容（例）：研究内容・研究環境に関すること、進路や分野選択等キャリアに関すること、研究と家庭の両立に関すること、周囲とのコミュニケーションについて など

また、メンターとしてご協力いただける教員を随時募集しています。女性研究者支援室ホームページのメンター申込フォームから、ぜひ登録にご協力ください。



女性研究者研究活動支援事業 シンポジウム 2014

2014年11月26日（水）、一橋大学一橋講堂（東京都千代田区）において、文部科学省主催の「女性研究者研究活動支援事業 シンポジウム 2014」が女性研究者支援とダイバーシティ・マネジメントをテーマに開催されました。

午前中は、A) 両立支援、B) 意識改革、C) ポジティブ・アクション（採用、登用）、D) 研究力向上・リーダーシップ育成、E) 次世代育成、F) 連携（地域・企業）・ネットワーク構築の6つのテーマによる分科会が実施されました。本学は、F) 連携（地域・企業）・ネットワークに国広室長が、D) 研究力向上・リーダーシップ育成に江頭コーディネーターが参加しました。分科会では各大学の取組や課題についての報告をもとに、解決策や新たな方策等について活発な議論がなされました。

午後は、橋本孝之氏（日本IBM株式会社会長）による基調講演「IBMの経営とダイバーシティ」、前田芳實氏（鹿児島大学）による特別講演「きばいもんそ！！かごつま～意識改革を目指して～」に引き続き、各分科会からの報告が実施されました。

本学が、文部科学省の科学技術人材育成費「平成24年度女性研究者研究活動支援事業」に選定されてから2年が経過し、最終年度を迎えています。研究支援員制度も整備され、啓発活動としての各種セミナーの開催、研究者の交流促進等、多くのの方々の力を借りながら実施してきました。

平成27年度からは、エンパワーメント・センターに事業を引き継ぎ、女性研究者が研究を継続しやすく、成果をあげられるような支援を実施していきます。

文部科学省 女性研究者研究活動支援事業 平成24年度 決定
東京女子大学 女性研究者研究活動支援事業
女性研究者支援の継続に向けて

女性研究者支援室は、女性研究者が能力を十分に発揮し、出産、子育て、介護などによって研究活動に支障をきたさないよう、研究環境を整え、様々な情報を発信し、研究職に就いている人だけでなく、これから研究者を目指す女性のために働きやすく、学びやすい環境を作ります。

研究者の交流 ~ Table Talk ~

日付	Vol.	タイトル	参加人数
2013年			
4/25	1	無理をしない二足のわらじの履き方	11名
5/6	2	勝る皆さんと勝たずして何？	11名
6/12	3	新しい機軸を持ち込む勇気	6名
6/20	4	研究者のネットワーク構築～答えは自分の中にある～	3名
7/19	5	美藤光子先生 公開インタビュー	12名
10/24	6	遊んで、遊んで、つながって	5名
11/18	7	想いと出会いが道を開く	3名
11/22	8	響子の前編 ～修士課程を終る～	5名
12/11	9	博士課程のすべて	8名
2014年			
1/10	10	エーク・ゲーム・カロー 少女よ、大志を抱け！	9名
3/13	11	歌麿「ハンテアーレント」から考えるドイツ史	3名
6/10	12	熊乳の「胎動」による「胎動」胎動の不安	18名
6/16	13	難病科に研究費 胎生体研究	4名
7/31	14	今、平井について語ります	25名
10/24	15	誰に話そう、それから就職一択？ 進学？ 研？ どうしよう？	開催予定

セミナーの開催

「リベラル、アーツについて考える」
H26.3.19開催
第1回 文理融合シンポジウム
参加人数：34名

「問いを立てる」
「女子大におけるリベラル、アーツについて考える」
H26.3.19開催
第2回 文理融合シンポジウム
参加人数：約100名

「女性が拓く未来のテクノロジー2014」
H26.7.15開催
IEEE JIC WIEとの共催
参加人数：約100名

「女子中高生のためのサイエンスフェスティバル」
H26.8.31開催
4女子大共催

研究者支援員制度

年度	研究活動促進				研究人登用	
	研究費	会議	講習	海外研修	海外研修	留学
2013年度	3	3	6	2	3	1
2014年度	4	3	7	3	2	2
2015年度	5	3	8	5	2	1
2016年度	4	2	7	5	1	1

※研修：海外研修（研究員）より参加費のうち1名は助成対象外（助成対象外）

情報発信

ホームページ Facebook
総発行部数 53816部
H26.10現在

News Letter
vol.3 2013年秋
vol.4 2014年春
vol.5 2014年夏
vol.6 2014年秋

ロールモデル集「リアル」(※作成中)
リアル
vol.1 2013年秋
vol.2 2014年春
vol.3 2014年夏
vol.4 2014年秋

メルマガリスト
登録者：開始 62名 → 現在 124名
インフォメーション
1st Season 東京女子大学実生 計10名
2nd Season 東京女子大学実生 計5名

東京女子大学 女性研究者支援室 室長：国広陽子 コーディネーター：江頭顕子
TEL/FAX 03-5382-6173 E-mail sowr@lab.twcu.ac.jp URL http://www.sowr.jp/



よいロンブンは よいカラダから 活動報告



2014年11月28日（金）「よいロンブンは、よいカラダから」を開催しました。当日は、3名の大学院生が参加しました。

健康・運動科学の平工先生に、トレーニングジムの使用方法について指導していただき、また参加者の現段階で持っている体力（脚力、腕力、持久力）を測定していただきました。院生は、久しぶりに体を動かす機会となり、1つ1つの体力を楽しみながら測っている様子が見られました。

平工先生からは、「体を整えるためには、まずは運動をし、次に食事の管理をするという順序が大切」とアドバイスを頂きました。また、体を動かすことによって、血のめぐりもよくなり、脳も活性化され、効率の良い研究ができるので、少しでも体を動かす努力をするようにと指導して頂きました。



東京女子大学 女性研究者支援室

【住所】〒167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1 【場所】4号館 4202号室
 【TEL】03-5382-6173 内線 2466 【E-Mail】sowr@lab.twcu.ac.jp
 【開室】(月)～(金) 10:00～17:00 【URL】http://www.sowr.jp
 【相談受付】(月)～(金) 13:00～18:00 (予約はメールでお願いします)